

湯沢 雍彦著

# 小さな家族論

家庭裁判所調査官、最高裁判所家庭局勤務を経て、現在お茶の水女子大学教授として家族関係学を担当している著者が、二十数年間に新聞や小雑誌に書き続けたものを纏めて刊行——家族、社会、世相史論。

## へ小さな家族論 目次

### 第一部 親と子のあいだ

- 1 親子関係は変わったか
- 2 だれがタガを締める
- 3 七ツ前は神のうち
- 4 かけこみ養子
- 5 子ども二人以下時代の人間関係
- 6 二十五年前の母子寮の人々
- 7 里帰り
- 8 わが娘へ
- 9 わが家のガイドライン
- 10 空飛ぶ赤ちゃん軍団の行方
- 11 文庫に集まる子供たち
- 12 ナタリーの家族関係
- 13 いじわるしないお父さん
- 14 北京の幼稚園のこと
- 15 「アリとキリギリス」の四百年

### 第二部 夫婦のきずな

- 1 女の姓は変わるべきか
- 2 欧米でも落ち込む夫権
- 3 結婚宮殿と新生児宮殿
- 4 同域婚のすすめ
- 5 正しい離婚率統計を
- 6 くふうが必要・結婚披露宴
- 7 ドラマ「夫婦」の波紋
- 8 日本人夫婦の冷たさ
- 9 三十男の結婚難時代
- 10 ソウルの結婚式に思うこと
- 11 離婚・どんな地域に多いか
- 12 国際結婚にふみきった村
- 13 夫婦の旅あれこれ

### 第三部 高齢者の周辺

- 1 たった一人の戸籍簿
- 2 志摩の漁村にて
  - (1) 働く年寄りたち
  - (2) 底ぬけに明るい海女
- 3 老人問題を考える本
- 4 科学的「老年学」の時代
- 5 高学歴女性の七十歳代の暮らし
- 6 『ハリーとトント』に寄せて
- 7 日本の老人は幸福か
- 8 こじきから大名へ
- 9 「社会権」としての「老人権」
- 10 平均寿命世界一の意味するもの
- 11 親子同居は長女の時代
- 12 ある老夫婦世帯の情景
- 13 温泉行きの温泉入らず

### 第四部 家族の変容

- 1 ふえる一人暮らし
- 2 家族の法律二十五年
  - (1) 「孝道」と扶養義務
  - (2) 戸籍と氏
  - (3) 離婚の制度
  - (4) 功と罪
- 3 家族・その虚像と実像
- 4 ニューファミリー管見
- 5 いま家族とは
- 6 ほぼ共通・母と娘のライフコース
- 7 家族の変容と報道

### 第五部 江戸・東京の家族

- 1 江戸東京の家族
- 2 家族構成
- 3 結婚
- 4 離婚
- 5 妾・私生子
- 6 養子
- 7 寿命

### 第六部 家族の環境

- 1 週休二日制と私たちの生活
- 2 物には表と裏があるものだ
- 3 だれのための住居表示制
- 4 魅惑的な一本の道
- 5 独走ワンマンバス
- 6 調停委員の選び方
- 7 七〇年代に女たちは
  - (1) 意識の変革めざして
  - (2) 社会進出広がる中で
- 8 形の葬儀と心の葬儀
- 9 ぐらしの理想像を求めて

### 第七部 趣味を楽しむ

- 1 女性よ、テニスは軟式を!
- 2 シミィはなぜ強かったか
- 3 練習の効果
- 4 女王さま時代の到来
- 5 ある趣味のすすめ

B6判上製

定価二、二〇〇円(本体二、一三六円)

票 文 注	
書店名	
注文	冊
湯沢 雍彦著	小さな家族論
株式会社クレス出版	定価2,200円
03 3808 1821	年 月 日
備考	

# 「家族・婚姻」研究文献選集

戦前篇 全15巻／別巻1／別冊解題付 湯沢雅彦監修  
 人類社会において永遠のテーマであり、現在一般の関心も高い「家族」の問題を、それに係わる婚姻、親子、婦人、離婚等を含めて、社会学・人類学・教育社会学・経済学・法制史学・民俗学等あらゆる分野から研究できるように精選集したものの。構成：①増補族制進化論（有賀長雄）②隠居論（穂積重遠）③子供本位の家庭（安部磯雄）④離婚制度の研究（穂積重遠）⑤家族制度と婦人問題（河田嗣郎）⑥日本家族制度史研究（砂川寛栄）⑦家族と婚姻（戸田貞三）⑧日本家族制度批判（玉城肇）⑨家族主義の教育（新見吉治）⑩日本農村社会学原理（鈴木栄太郎）⑪我国家族制度の研究（橋浦泰雄）⑫結婚と人口（岡崎文規）⑬白川村の大家族（江馬三枝子）⑭日本家族制度と小作制度（有賀喜左衛門）⑮家と家族制度（戸田貞三）⑯人事慣例全集（自治館編）

A 5判／総7,820頁／揃定価158,620円（分売不可）

戦後篇 全22巻／別冊解題付 湯沢雅彦監修  
 昭和21年から35年までの日本家族にとって特別な意味をもった15年間を対象とし、法律学、歴史学、民俗学、人類学、社会学、法社会学の分野より精選復刻。

構成：①農村児童の心理（牛島義友）②日本民俗論（和歌森太郎）③民衆生活史研究（西岡虎之助）④社会生活と家族法（戒能通孝）⑤家族史の諸問題（青山道夫）⑥相続法の諸問題（中川善之助）⑦新しい家の倫理（我妻栄）⑧妻・夫・親・子・嫁・しうとめ（土井正徳）⑨社会学大系家族（田辺寿利編）⑩家族生活の尊重（牧野英一）⑪調停読本（日本調停協会連合会）⑫家族関係の心理（牛島義友）⑬親子法の研究（谷口知平）⑭近代日本における家族構造（玉城肇）⑮日本婚姻法論（高梨公之）⑯婚姻覚書（瀬川清子）⑰慰藉料（民法第七一〇条）の算定に関する実証的研究（村上幸太郎）⑱日本における大家族制の研究（玉城肇）⑲訂正増補日本母権制社会の成立（洞富雄）⑳日本人の生活構造序説（蒲生正男）㉑家族制度についての世論調査（内閣総理大臣官房審議室編）協議離婚の実態（労働省婦人少年局編）㉒転換期における家事資料の研究（家事資料研究会編）

A 5判・B 5判／総7,696頁／揃定価186,430円（分売不可）

# 戦後婦人労働・生活調査資料集

全26巻／別冊附録付 高橋久子・原田冴子・湯沢雅彦監修  
 昭和22年に労働省婦人少年局発足以来刊行されてきた「婦人労働調査資料」「婦人関係調査資料」を中心に生の貴重な調査資料を纏め、民主主義社会における戦後30年の婦人労働の実態や婦人の生活と意識を伝える。労働篇は、産業別労働実態、女子保護、労働組合、雇用管理、女子保護の概況調査、賃金・家事使用人、内職、生活篇は労働者家族、農山漁村婦人、女世帯、風紀・売春、消費生活水準、婦人の地位と意識、生活意識で構成。B 5判／総11,460頁／揃定価350,200円

# 戦前期 国勢調査報告集

全19巻 湯沢雅彦監修 財団法人日本統計協会編集協力  
 大正9年を第1回として、5年毎に調査されている「国勢調査」の戦前分を復刻。全国、府県、市町村別の男女別年齢別の人口、就業状況、配偶関係、住居の種類、世帯の構成等の統計集。B 5判／総約10,900頁／揃定価387,280円

# 家庭教育文献叢書

全18巻 石川松太郎監修・解説  
 家族が家庭で子どもに基本的な養育と社会化を行う「家庭教育」は、子どもの人格形成に重要な役割をもち、教育の基本である。本叢書は、「家庭教育」に関する明治より昭和20年（終戦）まで発表された文献を鳥瞰できるように纏め、社会変化とともに「家庭教育」がどのように変わってきているか明らかにする。家庭教育のみでなく、女子教育・幼児教育・生涯教育等の史料として重要。〈全巻構成〉①博覧会見聞録別記子育ての巻（近藤真琴）家庭教育（小池民治・高橋秀太輯）②家庭教育（民友社編）家庭教育法（利根川興作）③家庭教育講話（高島平三郎）親の罪（三土忠造）④新家庭訓（三輪田真佐子）⑤家庭教育の実験（羽仁もと子）家庭教育の仕方（堀田相爾）⑥小学校に連絡せる家庭教育（山松鶴吉）⑦家庭教育学（田中義能）⑧修訂増補模範家庭（鳩山春子訳）⑨家庭教育の原理と実際（麻生正蔵）⑩桃太郎主義の教育（巖谷小波）⑪家庭改良と家庭教育（佐佐木吉三郎）⑫家庭教育講話（小川正行）⑬家庭教育（市川源三）⑭幼児より成年まで家庭教育の実際（野瀬寛頭）⑮家庭教育、家庭教育と学校教育（倉橋惣三）家庭教育（小西重直）⑯日本の家庭教育（岡村匡造）⑰国民学校と家庭教育（阪本一郎）⑱家の道（戸田貞三）皇国家庭教育読本（公手喜代史）A 5判／総約7,150頁／揃定価175,100円（分売不可）

# 女性日本人

全12巻 佐藤能丸監修 佐藤能丸・三宅桃子解説  
 婦人総合雑誌として、ナショナリスト三宅雪霰が主宰し、大正9年9月に創刊、大正12年9月の終刊まで全38冊を政教社より刊行。本誌の目玉は「主張及批判欄」で、時事問題に鋭い論評が展開され、寄稿者には、平塚らいてう・山川菊栄・山田わか・神近市子・奥むめお・中条百合子・吉屋信子らの女性陣、吉野作造・権田保之助・大山郁夫・佐野学ら錚々たる論客が多い。婦人参政権・男女平等・生活改革・恋愛と貞操など重要な問題を扱い、また大正後期の文学状況を知るに不可欠な資料。A 5判／総約7,950頁／揃定価180,250円

# 婦人と新社会

全7巻／別冊総目次・解説付 五味百合子監修・解説  
 山田わか個人の評論雑誌として、わかを主筆に、夫嘉吉を編集発行人として大正9年3月創刊され、嘉吉が発病した昭和8年7月第160号まで刊行された。創刊は平塚らいてうの新婦人協会の発会と時を同じくしているがわかはこのに参加せず、わかと嘉吉は独り舞台で読者とじかに語り合い共感し合いたい希望と期待をこめた小誌の発刊にふみきっている。婦人問題研究の宝庫というべき未曾有の雑誌であり、わか婦人問題は「愛」であるという主張が全号を通じて掲げられている。B 6判／総5,100頁／揃定価92,700円

# 藤田徳松著作集

藤田徳松著 森崎富喜編集協力  
 大正末より昭和初期に、精力的に婦人問題に関する論文を発表。わが国最初の『明治大正婦人問題文獻誌』を独自で刊行した隠れたる書誌家。論文、小伝、書誌研究を収める唯一の書。A 5判／450頁／定価6,500円